

【高等学校用】

令和5年度学校評価計画

学校名	佐賀県立有田工業高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・コロナ感染拡大期には学校行事の実施方法の変更や中止等を余儀なくされたが、徐々に平時の学校運営にもどりつつある。デザイン科・セラミック科展、有田陶器市ボランティアなどの地域の様々なイベントも実施され、学校外での教育活動も回復してきている。</p> <p>・「SAGAコラボレーション・スクール」重点校の指定を受け、学校運営協議会を設置し、委員の意見を反映した学校運営の工夫・改善に努めた。また、各学科の特色を生かした地域と連携した取組や地域貢献活動などを、様々な媒体方法で積極的に情報発信し、学校の魅力発信を強化することができた。次年度は、組織的な体制でPR方法を検討しながら広報活動を行っていききたい。</p> <p>・「地域みらい留学」制度への参画2年目を迎え、県と町の協力を得ながら、オープンスクールや個別相談会などを行い、県外からの志願者増に向けて取り組んだ。次年度に対応すべき課題も見えてきたので、関係者の共通理解のもと、学校内外の支援体制を整えていきたい。</p>

2 学校教育目標	<p>勉情 「愛し」「創り」「光れ」を礎とした自立型人間の育成</p> <p>「愛し」：自分を大切にし、他人を思いやる 「創り」：新しいことに積極的に挑戦していく</p> <p>「光れ」：一人ひとりが社会に貢献できる人間になる</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>・新学習指導要領実施に対応した教員の授業力向上と学習評価の工夫、生徒の主体的な学びの推進</p> <p>・「SAGAコラボレーション・スクール」重点校としての、有田町との連携協働による特色ある教育活動の充実と地域振興への貢献</p> <p>・県内唯一無二のセラミック科とデザイン科の魅力発信の強化、全国募集の推進及び志願者数の増加</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○(学校独自重点取組)	○(学校独自成果指標)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会及び学力向上対策委員会を活性化させ、より効果的な評価方法の確立。授業研究週間年2回実施。 ・作問担当の各教科へ試験結果の分析と効果的な手立ての依頼。
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	
●心の教育	○高い志を持ち、自らの目標や進路実現に向けた資格・検定取得の奨励	◎高度資格取得と進路実現に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・顕彰制度、表彰制度を生徒・保護者・職員へ周知させる。 ・資格取得、コンクール参加を奨励、補習体制の充実を図る。 ・9月に校内模擬面接指導を実施し、就職については内定率100%を目指す。企業や学校を知る機会をつくる。
	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「豊かな心をはぐくむ教育活動の実施	○「生命を尊重する心」や「献血への協力の大切さ」がわかった」と回答した生徒92%以上
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・生活状況調査を11月に実施する。 ・心身の健康の保持増進に必要な情報を、保健だより(毎月発行)、食育だより(年間6回)で発信する。
	○部活動の活性化	○(学校独自成果指標・任意)	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動紹介、HP部活動ニュースの充実を図る。 ・部活動予算・体育文化奨励費の適正な運用と練習環境の整備・改善を行う。 ・体育科との連携による体力を高める運動の実施とマラソン練習期間を確保する。
○体力の向上	○九州・全国大会への出場・入賞		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日を設定(水曜日)し、掲示や口頭による啓発を行う。 ・部活動休業日を設定する。 ・有給休暇を取得しやすい職場環境づくりに努力する。
	○有給休暇(男性職員子育て休暇取得プラン含む)の取得を14日以上	○早出遅出勤の奨励	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
★SAGAコラボレーション・スクール重点校としての取組推進と学校魅力化の情報発信の工夫	★学校運営協議会(学校魅力強化委員会)の更なる活用による地域・外部との連携強化	★学校運営協議会を年6回開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の熟議をさらに充実させる。 ・地域に出向いたり、地域の方々と触れ合う機会をこれまで以上に確保する。 ・広報活動を校外だけでなく校内にも充実させ、他科や他の部等の活動も周知する。 ・県外への学校訪問を積極的に行う。 ・地域みらい留学による入学者のケアを丁寧に行い、入学者が宣伝者となるよう充実した生活を送れるようにする。 ・前年度以上に戦略を立てた広報活動を行う。
	○地域や外部と協働し、高校の魅力を高める取組の推進	○地域から大切にされている雰囲気を感じると答えた生徒の割合を80%、教職員の割合を80%以上にする。	
	○学校の魅力発信の強化と広報活動の充実	○自分の学校を中学校にお勧めできると考えている生徒の割合を83%、教職員の割合を85%以上にする。	
	★「地域みらい留学」を通じた全国募集の更なる推進(セラミック科・デザイン科)と受け入れ生徒の支援体制の確立	○県外からの入学者数を28名以上に	
		○地域みらい留学入学者を5名程度にする。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
----------------	----------------------------